

**製品名:** リン酸化 TAOK1/2/3 (Ser181/Ser181/Ser177) ウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe84919

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW: 116 kDa; Observed MW: 105,116,138 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	Phospho-TAOK1/2/3 (Ser181/Ser181/Ser177)
別名	DPK; JIK; hKFC-A; MAP3K18
遺伝子 ID	51347/57551/9344
SwissProt ID	Q7L7X3/Q9H2K8/Q9UL54
免疫原	ヒト TAOK1 の Ser181 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

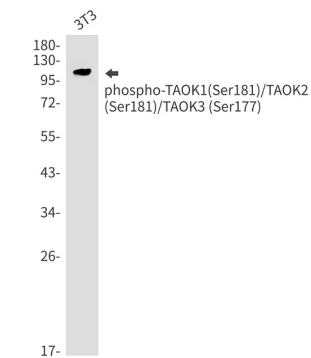
## 背景

セリン/スレオニンタンパク質キナーゼは、p38/MAPK14 ストレス活性化 MAPK カスケード、DNA 損傷応答、細胞骨格安定性の調節

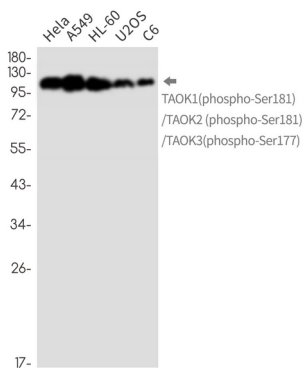
など、様々なプロセスに関与しています。MAP2K3、MAP2K6、MARK2 をリン酸化します。リン酸化とそれに続く上流 MAP2K3 および MAP2K6 キナーゼの活性化を媒介することにより、p38/MAPK14 ストレス活性化 MAPK カスケードの活性化因子として機能します。p38/MAPK14 への G タンパク質共役受容体シグナル伝達に関与しています。DNA 損傷への応答として、おそらく MAP2K3 および MAP2K6 のリン酸化を媒介することにより、p38/MAPK14 ストレス活性化 MAPK カスケードを活性化することにより、G2/M 期遷移 DNA 損傷チェックポイントに関与します。

## 研究分野

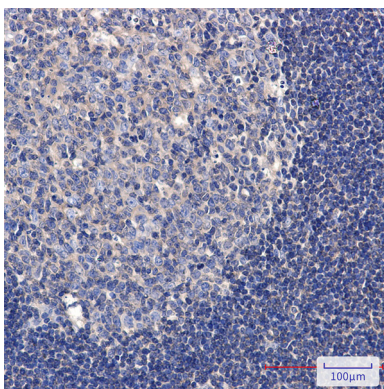
## 画像データ



Phospho-TAOK1/2/3 (Ser181/Ser181/Ser177) 抗体を使用した 3T3 溶解物中の Phospho-TAOK1 (Ser181)/TAOK2 (Ser181)/TAOK3 (Ser177) のウエスタンブロット分析。



TAOK1 (リン酸化 Ser181)/TAOK2 (リン酸化 Ser181)/TAOK3 (リン酸化 Ser177) 抗体を使用した、Hela、A549、HL-60、U2OS、C6 溶解物中の TAOK1 (リン酸化 Ser181)/TAOK2 (リン酸化 Ser181)/TAOK3 (リン酸化 Ser177) のウエスタンブロット分析。



TAOK1 (リン酸化 Ser181) /TAOK2 (リン酸化 Ser181) /TAOK3 (リン酸化 Ser177) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。